



GOOD NEWS ときのことえ

War Cry

10月号

福音版
2022
October
No.2841

二〇二二年 十月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行(除く七月)

信じてすがった 女性の勇氣

石坂 奈緒美

最近、二十年ぶりに懐かしいママ友と会い、お喋りをするのができました。二十年の間の出来事を話す

には二時間では全く足りませんでした。子育ては終盤子離れ期となり、やっと自分の時間がもてると思いき



や、自立の難しさ、更年期の体調不良、夫婦の問題、そして親の介護等々、悩み課題は尽きません。「いつ楽になるんだろう？」そんな言葉がつい出るのです。聖書を読んでいると、イエス様に救いや癒しを求める人には、様々な事情があり、いろいろな苦しみを抱えていることがわかります。重い皮膚病のため人目を避けて生活しなければならぬ人や、悪霊に憑かれて町では生活できず、墓場や山で暮らしていた人、長い間闘病しながら生活していた女性……正面から堂々と癒しを願うことのできる人もいれば、できない人もいたでしょう。そんな事情を抱えながらも、イエス様の力に期待して「何とか治りたい」一心で行動に出た女性のことが、聖書のマルコによる福音書五章に記されています。

この女性は、十二年もの間、出血が止まらない病気に悩まされていました(婦人科系の病気だったのでしょう)。この時代、その病は汚れたものとされ、周囲の人々からひどい扱いを受け、財産を使い果たし医者に診てもらっても一向に良くならなかつたというのです。

「女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。」(33節) 勇氣のいることだったでしょう。イエス様はいつでも人格的な交わりを求め、苦しみに寄り添われます。そして、進み出たこの女性の勇氣と応答を深く喜ばれ、「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその

病気にかららず、元気に暮らしたさい。」(34節) と祝福されました。イエス様の促しに応答したことによって彼女は病の癒しだけでなく、人との関わりも回復されました。彼女が「信じてすがった」ことをイエス様は評価されたのです。癒し主であるイエス様のお姿に深い慰めを感じます。

イエス様が関わったこの女性は、言うならば誰からも顧みられない人、日の当たらない人の叫びや求めにイエス様は応え、必要を満たされまます。堂々と「助けて」と言えない人の呻き、求めにさえもイエス様は応えられる、憐れみ深いお方です。このイエス様に私たちはどんな苦しみ、悩みでも打ち明け、助けを求めることができまます。その大きな憐れみと絶大な力を信じてすがってよいのです。自分で何とかしようとしなくて、力を抜いて、この女性が「イエス様の服に触れれば癒していただける」と信じた信仰に倣って、イエス様に期待を大きくもちましよう。イエス様は私たちの思いを超えてすばらしいことをなしてくださいます。(救世軍士官(伝道者))

「あなたもこっちに来ませんか」 ～教誨師の働きの中で～



救世軍士官（伝道者）
宮本 正勝 さん

プロフィール

若い頃は演劇青年だったが、40歳を前に伝道者の道に方向転換。各地の小隊（教会にあたる）や病院で奉仕。北海道、帯広小隊に在任中、刑務所や少年院で長年教誨師をつとめた。



わたしが以前奉仕していた救世軍の小隊（教会にあたる）では、日曜礼拝を終えると、野戦（野外伝道）に出かけます。ラッパを吹いて賛美をし、聖書のメッセージを終えると、またラッパを吹きながら行進して戻って来る、いつもお決まりの行程です。

「おかげさまで、何とか……」

日本の救世軍の始まりは、一八九五（明治二十八）年ですが、最初に手がけた社会事業は翌明治二十九年の「釈放者保護所」でした。救世軍は、時代の節々に、しくじってしまった人々を助ける試みをしてきました。現在日本の救世軍では免囚

保護（刑務所から出た人たちの更生を支援する働き）の施設はありませんが、その精神は施設や小隊の働きに染み込んでいます。そこで、刑務所や少年院で「イエス様による回復」をお手伝いしている教誨師の働きを紹介することにしました。

ところがその日は、この野戦の中で、神様に祝福された、小さなハプニングがあったのです。ラッパを吹いていたわたしたちの所へ、二人の男性が近寄って来て、そのうちの一人が耳もどで声をかけたのです。「刑務所ではお世話になりました。おかげさまで何とかやっています。」爽やかな笑顔。ペコリと頭を下げてデパートの中に消えて行かれました。

「刑務所では……」という声は一緒の方にも聞こえていましたから、きっとお仲間なのかもしれません。わたしは、この声をかけてくださった方については何も知りません。お名前はもとより、刑務所からいつ出たのかもわから

本物でありたいと願っています

りません。わかるのは、月に一回の集団教誨（受刑者が希望する宗教の時間）の「キリスト教の時間」に出席していたおひとり、察するのみです。このお二人にしてみても、わたしたちが日曜ごとに野戦をやっていることなど知る由もないわけで、本当にたまたま、不意の出会いだったのです。久しぶりに友達に会い、デパートの方へ向かっていると、どこかで聞いた賛美歌、刑務所で毎回歌っていた「アメージング・グレイス」。「おう、あの先生たち！」で、勢いあまつてつい声をかけてしまったのでしよう。

も。かもね、ではありません。確かにわたしたちは時代に乗らない不格好な群れです。それはただ神様の前に本当の生き方を求めているからなのです。世の中の周波数に合わせられずに苦勞している面があるのも承知しています。でもそんな中に、神様の不思議な段取りで、ピタッと合う人もあるのです。「おかげさまで」とわざわざ声をかけてくだ

遠くで見ているだけでなく、わざわざ寄って来て「おかげさまで、何とか……」と声をかけられたのは、この人は今、ちゃんと新しい出発をされ、仕事もうまくいっている。「何とか」どころか心の底から神様に感謝をしているのです。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」（テサロニケの信徒への手紙一 5章16～18節）



教誨師としての働きに感謝状の授与。帯広刑務所、2018年



雪の中での社会鍋

さることもあるのです。社会鍋に気持ちよく入れてくださるのも長い間の信頼ですね。
教誨師の働きも同じく地味で、神様の聖なる雄大な流れに委ねなくてはなりません。聖書はこう言います。「あなたのパンを水に浮かべて流すが良い。月日

がたつてから、それを見いだすだろう。」(コヘレトの言葉 11章1節)
パンを投げ続け、種をまき続ける時、「それでいいですよ」と、神様はときにその恵みを伝えてくださるのですね。

「本物、本当の」と言えば、少年院のクリスマスにあつた、院生代表のお礼の挨拶を忘れることはできません。

毎年、この救世軍では、刑務所や少年院でクリスマスのお礼の挨拶をおこなっています。少年院では、ローンクの火のもと、カロールを歌い、バンドの演奏があり、クリスマスメッセーの後の後半は、リラックスしてミニコンサート。ケーキをそれも二つも食べるのです。食べ終えらんと院生代表のお礼の挨拶です。もちろん文章はあらかじめ先生と一緒に作り、暗記しています。院生を代表する少年は立って挨拶を

始めました。最初は、自分が感じたことをひと言話すことになっていきます。「えーと、あのー、ぼ、ぼくはこんな本当のクリスマスは初めてです。」あとは暗記したところにうまくつながり、お礼の挨拶は終わったのです。すばらしいお礼になりました。彼が言った「本当のクリスマス」は本当のクリスマスメッセーとなったのです。

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」(ルカによる福音書 12章32節)
このとき、そのクリスマス会の会場は確かに神の国となっていたのです。
少年院だけでなく、刑務所の集団教誨にも霊の糧を得ようと、本物を求めて受刑者の方々が集ってこられます。大きな声で賛美が始まります。村田英雄ばりの小節がコロコロとつきまますが、調子はいたって快調です。愛敬のある本当の賛美です。

「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。」(ペトロの手紙一 1章8、9節)
ここに、今までの自分心の生き方を捨てて、イエスの十字架の救しを受け、全く新しい人生を始めた人たちがいます。本物に出会い、そこにひびきまじり、今

までのしがらみをかなぐり捨てて、魂の救いを得た人たちです。
「でも、大丈夫なの？」
と言われるのもごもつともその初めは、危ないところや意固地なところはまだそのまま、しかし、神様の段取りはどんどん進められていくのです。
この聖なる取り扱いは特別に受けた人たちは、重たい十字架を背負ってイエス様に従うのです。ある人は酒、ある人は薬、ある人はギャンブル、みんなしつこい依存性の問題ばかりで大変です。

ですが、彼らは意外に明るく、くつたかない。なぜなら、その重い十字架が何と強い味方なのです。ダメーじが直接的な言葉になり力になり、迫るのです。酒、薬、ギャンブルからの解放は真実な生き方を前へどんどん進めるのです。刑務所でもたれる特別集会での彼らの証言と賛美は、まるで懐かしい故郷に帰ったような感動の思いが爆発します。

ですが、彼らは意外に明るい人です。そこでひもじい思いでいた人、そこで戦っていた人、そこで苦しんでいた人、一番ダメーじを受けていた人が一番わかる人なのです。そこから変わる、それは言葉に言い尽くせないすばらしい喜びです。
さんざん苦労してきた人が、
さんざん苦労している人を助ける。
もう今は、抵抗、反抗、懲罰ではなく、
赦された側の人間として生きるのです。

さて、救世軍はよく街頭給食をやります。多くの人々が何時間も前から並んで待ちます。本当にお腹を空かせてひもじい思いで待ちます。お世話をするスタッフがいて、多くの人にスムースに配食され、皆さん感謝してそれをいただくのです。ここで問題です。このスタッフのうちだれが、並んでいる兄弟の気持ちを一番わかっているのでしょうか？ 長い間責任をもつ担当の方でしょうか。違います、もうおわかりですね。ひもじい思いでそこに並んだことのあるスタッフです。ちょっと前はそっちで並んでいましたが、今はこっちでお世話する側の一人に変わ

各地の小隊から人が集まる救世軍の連合集会に、今はお世話する側が変わった方の姿が見えたので、席を立てて声をかけました。「刑務所や少年院のことを、教誨師の目線で紹介したいんですが」と言うと、彼は「それは良いことですね」と答えました。しばらくして自分の席に戻ったわたしの耳もとで声がありました。見るとその方で、「必ずこれも入れてください。『わたしのように、あなたもここに来ませんか！』と。」
わたしは、それをこの証言のタイトルにしました。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈ギニア〉救世軍が活動する国と地域が133に!



ギニアで新しく救世軍兵士(信徒)になった人々

8月16日、救世軍がアフリカのギニアで公式に活動を始めたことが発表されました。救世軍が活動する国と地域の133番目の国となり、リベリア・シエラレオネ地区の救世軍の一部として活動します。ギニアは西アフリカ西端に位置する人口約1300万人の国で、首都はコナクリです。1958年にフランスから独立し、フランス語を公用語としています。イスラム教徒が多く、クリスチアンの人口は10%未満です。

救世軍が活動を始めるための最初の調査は2018年におこなわれました。

2019年1月に士官(伝道者)が派遣され、2021年11月15日に正式に「Armée du Salut」(「救世軍」のフランス語表記)として法人登録されました。

活動は急速に拡大しており、現在1つの小隊(教会にあたる)と5つの分隊(伝道所)が設けられています。今年2月にリベリアを訪問したブライアン・ペドル大将と万国女性部会長ロザリー・ペドル中将は、大会に出席するためにギニアから集った100人以上の人々を救世軍の一員として歓迎しました。

〈ジョージア〉ウクライナ難民支援

黒海に面した国ジョージアでは約6万人のウクライナ難民が避難生活を送っています。ジョージアの救世軍は、ウクライナ難民の子どもたち100人のために黒海沿岸の海水浴地ウレキでサ

マーキャンプを20日間にわたっておこないました。このキャンプのために日本の救世軍から300万円を支援しました。この支援は皆様からのウクライ



ナ難民支援募金によって実現することができました。



ブライアン・ペドル大将、ロザリー・ペドル中将 11月来日!

〈スケジュール〉 ※詳細は救世軍公式ホームページをご覧ください

- 11月18日(金) 17時 西日本連隊連合集会
会場) スイスホテル南海大阪 (大阪・難波)
- 11月19日(土) 17時30分 伝道コンサート (入場自由)
会場) 日本教育会館一ツ橋ホール (東京・神保町)
- 11月20日(日) 10時 連合聖別会
会場) 共立講堂 (東京・神保町)



救世軍とは? What is The Salvation Army?
心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置き、世界133の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神の愛を伝えてきました。日本では、1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。日本人で最初に救世軍士官となったのは山室軍平です。その妻 機恵子は、^{はいしやう} 娼婦運動で救出された女性たちの自立支援、結核療養所設立のための募金など、山室と共に、神と人のために積極的に活動しました。



山室機恵子

さて、^{こんにち}今日の日本では直接的に目にすることは少ないかもしれませんが、貧困や人身取引被害等、多くの女性たちが苦しみの中にあり、支援を必要としている現実があります。9月25日には全世界の救世軍で、「人身取引被害者のための世界祈祷日」を守りました。10月は特別に女性の働きを心に留め、祈り、海外支援のための献金を献げます。今年の献金はパプアニューギニアの救世軍が運営している人身取引被害者支援シェルター改装に用いられます。また、日本の救世軍では2つの婦人保護施設を運営しており、困難の中にある女性たちへの支援を続けています。

創立者ウィリアム・ブースは1912年、その最後の公開演説で「女性たちが泣く限り、私は闘う」と言いました。救世軍は神の造られた一人の命が^{うめ}呻き苦しむなら、そこに助けの手を、と祈りつつ活動しています。

救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日(除く7月)
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。